

2025年3月期 中間決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年11月14日

上場会社名 株式会社デンタス

上場取引所

東

コード番号 6174

URL <https://www.dentas.jp/>

代表者(役職名) 代表取締役

(氏名) 河野恭佑

問合せ先責任者(役職名) 取締役管理部長

(氏名) 大崎 隆

(TEL) (088) 657-3115

発行者情報提出予定日 2024年12月26日

配当支払開始予定日

—

中間決算補足説明資料作成の有無 : 無

中間決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期中間期の連結業績(2024年4月1日~2024年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	470	21.7	△0	—	3	—	1	—
2024年3月期中間期	386	△15.4	△36	—	△32	—	△31	—

(注) 中間包括利益 2025年3月期中間期 2百万円(-%) 2024年3月期中間期 △33百万円(-%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	4.59	—
2024年3月期中間期	△77.09	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	563	18	△0.9
2024年3月期	562	16	△1.2

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 △5百万円 2024年3月期 △7百万円

2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0 00	0 00
2025年3月期	—		
2025年3月期(予想)		0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,065	24.0	14	—	11	—	10	—	24.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有・無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有・無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有・無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有・無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有・無
- ④ 修正再表示 : 有・無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期中間期	406,666株	2024年3月期	406,666株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	1,300株	2024年3月期	1,300株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年3月期中間期	405,366株	2024年3月期中間期	406,666株

※ 中間決算短信は、公認会計士又は監査法人の中間監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、中間決算短信（添付資料）4ページの「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 経営成績の概況	2
(2) 財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等について	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 中間連結貸借対照表	6
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結株主資本等変動計算書	10
(4) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 中間連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 経営成績の概況

当中間連結会計期間（2024年4月1日～2024年9月30日）における我が国経済は、円安を背景とした好調なインバウンド市場及び輸出企業が牽引し緩やかな回復基調で推移する一方、物価上昇の影響等による今後の景気悪化懸念が依然残されております。また、ロシア・ウクライナ情勢の長期化等による世界的な経済活動の停滞と原油・原材料価格の高騰、中国・台湾問題、中東情勢等の地政学リスクの高まりにより世界情勢は引き続き不安定であり、景気の先行きも依然不透明な状況となっております。

また、当社グループが事業を営む歯科関連業界及び日雑業界においても、原材料価格の高騰等により厳しい状況が続いております。

こうした事業環境のもと、当社グループは引き続き経営体制の見直しと共に、赤字の早期解消に向けて経費の全面的な見直し、歯科技工現場における原価圧縮施策等の経営合理化を行うとともに、新規事業となる歯科関連ビジネスの創出を進め、歯科関連業界及び日雑業界の発展に寄与すべく努めてまいりました。

このような状況の下、当中間連結会計期間における売上高は470,721千円（前年同期比21.7%増）、営業損失は583千円（前中間連結会計期間は営業損失36,674千円）、経常利益は3,029千円（前中間連結会計期間は経常損失32,703千円）、親会社株主に帰属する中間純利益は1,864千円（前中間連結会計期間は親会社株主に帰属する中間純損失31,349千円）と、前連結会計年度より開始した新規事業であるマウスピース矯正事業の拡大が寄与し、経常利益及び親会社株主に帰属する中間純利益においては黒字への転換を達成いたしました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりであります。

(歯科技工関連事業)

当セグメントの売上高は148,238千円(前年同期比7.4%増)、セグメント損失は18,613千円(前中間連結会計期間はセグメント損失14,348千円)となりました。

・歯科技工

主な売上である歯科技工物の製作については、競争激化による受注価格の低下により不安定な面はあるものの、緩やかに受注件数が伸びており当中間連結会計期間における売上高は103,061千円（前年同期比7.0%増）となりました。

・歯科技工商品・製品販売

一部商品について、原材料価格の高騰による販売数量の減少があり、当中間連結会計期間における売上高は26,019千円（前年同期比2.5%減）となりました。

・歯科関連商品販売

AED他、歯科関連商品の販売増加により、当中間連結会計期間における売上高は19,157千円（前年同期比28.0%増）となりました。

(オーラルケア製品製造販売事業)

子会社のアイオニック株式会社における、イオン歯ブラシを主とするオーラルケア製品の販売がEC販売において徐々に増加しており、当セグメントの売上高は258,644千円（前年同期比4.0%増）、セグメント利益は5,209千円（前中間連結会計期間はセグメント損失7,533千円）となりました。

*イオン歯ブラシ：内蔵されたリチウム電池から10～50マイクロアンペア（100万分の10～50アンペア）の微弱電流（マイナスイオン）を流して、虫歯・歯周病・口臭の原因となる「歯垢」を効率的に取り除く歯ブラシ

(マウスピース矯正事業)

前連結会計年度より、株式会社デンタスにおける新規事業としてマウスピース矯正事業を開始しております。この結果、当セグメントの売上高は63,838千円、セグメント利益は26,792千円となりました。

(2) 財政状態の概況

①資産、負債および純資産の状況

当中間連結会計期間末における、資産、負債および純資産の状況は、次のとおりです。

(ア)流動資産

流動資産は402,617千円となり、前連結会計年度末と比較して4,323千円増加しました。

主な科目の増減及び増減理由は次のとおりです。

- ・現金及び預金が28,646千円増加しました。
これは主に、売上債権の回収が進んだことによるものであります。
- ・受取手形及び売掛金が27,129千円、電子記録債権が17,540千円減少しました。
- ・商品及び製品が17,178千円増加しました。

(イ)固定資産

固定資産は160,693千円となり、前連結会計年度末と比較して3,724千円減少しました。

主な科目別の増減及び増減理由は次のとおりです。

- ・有形固定資産が2,961千円減少しました。
これは主に、連結子会社の有限会社マリンデンタルにおいて機械装置及び運搬具が6,196千円増加した一方、減価償却が進んだことによるものであります。

(ウ)流動負債

流動負債は359,247千円となり、前連結会計年度末と比較して26,892千円増加しました。

主な科目別の増減及び増減理由は次のとおりです。

- ・短期借入金が50,000千円増加しました。
これは新規借入によるものであります。
- ・1年内返済予定の長期借入金が15,970千円減少しました。
これは借入金の返済によるものであります。

(エ)固定負債

固定負債は185,356千円となり、前連結会計年度末と比較して28,668千円減少しました。

主な科目別の増減は次のとおりです。

- ・長期借入金が29,204千円減少しました。
- ・退職給付に係る負債が1,410千円増加しました。

(オ)純資産

純資産は18,705千円となり、前連結会計年度末と比較して2,374千円増加しました。
これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益1,864千円の計上によるものです。

②キャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比較して28,646千円増加し、111,981千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は32,389千円となりました（前中間連結会計期間は使用した資金85,521千円）。これは主に、売上債権が44,670千円減少したこと、及び減価償却費を11,876千円計上した一方で、棚卸資産が12,896千円増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は7,829千円となりました（前中間連結会計期間は使用した資金30,100千円）。これは主に、有形固定資産の取得による支出7,859千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、獲得した資金は4,119千円となりました（前中間連結会計期間は獲得した資金4,893千円）。これは主に、短期借入金の増加額50,000千円及び長期借入による収入7,500千円があった一方、長期借入金の返済による支出が52,674千円であったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期における通期連結業績予想につきましては、2024年5月15日付の決算短信で公表した業績予想から変更しておりません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等について

当社グループは、前連結会計年度において、重要な営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、また、当中間連結会計期間においても、営業損失583千円を計上しております。

当該状況により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは当該状況を解消し又は改善すべく、以下の対応策に取り組み、安定した収益基盤の確立、コスト削減および資金調達等による、財務基盤の強化を目指してまいります。

具体的には次のとおりであります。

1. 歯科技工関連事業及びオーラルケア製品製造販売事業に並ぶ新たな収益源として、前連結会計年度より開始したマウスピース矯正事業を育成し、さらに今後、主に歯科クリニック向けサービスを提供する歯科関連ビジネスの立ち上げと育成に努めてまいります。

2. イオン歯ブラシの製造販売を行っているアイオニック株式会社との連携によって、収益基盤の拡大とシナジー効果の創出に努めてまいります。
3. 主要取引先であり、前述のアイオニック株式会社への共同出資を実施した株式会社シケンと引き続き緊密に連携し、収益拡大を図ってまいります。
4. 人件費を含めた経費の全面的見直しを実施、不採算部門の縮小等リストラクチャリングを積極的に推進し、キャッシュ・フローの最大化を目指してまいります。
5. 財務状態の改善を目指し、新たなファイナンスの検討を実施、同時に借入金等その他の資金調達についても進めてまいります。

以上の対応策を中心とした経営の効率化を図り、安定的な収益基盤を構築すべく努めてまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上であり、計画が全て順調に推移するとは限らず、不測の事態も考えられることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められません。

なお、中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間連結財務諸表には反映しておりません。

2 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	83,335	111,981
受取手形及び売掛金	130,753	103,623
電子記録債権	34,204	16,663
商品及び製品	29,124	46,303
仕掛品	5,380	4,172
原材料及び貯蔵品	110,507	107,658
その他	18,233	19,752
貸倒引当金	△13,245	△7,539
流動資産合計	398,293	402,617
固定資産		
有形固定資産		
建物	227,261	227,816
減価償却累計額	△172,227	△173,739
建物(純額)	55,034	54,078
機械装置及び運搬具	396,249	401,498
減価償却累計額	△376,955	△379,480
機械装置及び運搬具(純額)	19,294	22,018
工具、器具及び備品	373,798	374,350
減価償却累計額	△344,517	△349,157
工具、器具及び備品(純額)	29,281	25,194
リース資産	37,891	37,891
減価償却累計額	△35,751	△36,393
リース資産(純額)	2,140	1,498
土地	48,352	48,352
有形固定資産合計	154,101	151,139
無形固定資産		
ソフトウェア	3,687	2,632
借地権	4,900	4,900
無形固定資産合計	8,587	7,532
投資その他の資産		
破産更生債権等	121,954	131,073
その他	1,730	2,021
貸倒引当金	△121,954	△131,073
投資その他の資産合計	1,730	2,021
固定資産合計	164,418	160,693
資産合計	562,712	563,310

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	65,523	58,128
短期借入金	100,000	150,000
1年内返済予定の長期借入金	104,503	88,533
リース債務	1,412	1,412
未払金	23,895	21,223
未払法人税等	938	821
未払消費税等	11,778	10,657
前受金	—	1,099
賞与引当金	5,167	7,400
その他	19,137	19,971
流動負債合計	332,355	359,247
固定負債		
長期借入金	183,952	154,747
リース債務	941	235
繰延税金負債	3,754	3,586
退職給付に係る負債	23,336	24,747
資産除去債務	2,040	2,040
固定負債合計	214,025	185,356
負債合計	546,380	544,604
純資産の部		
株主資本		
資本金	67,984	67,984
資本剰余金	30,000	30,000
利益剰余金	△105,105	△103,240
株主資本合計	△7,120	△5,256
非支配株主持分	23,452	23,961
純資産合計	16,331	18,705
負債純資産合計	562,712	563,310

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	386,716	470,721
売上原価	269,474	315,963
売上総利益	117,241	154,757
販売費及び一般管理費	153,916	155,340
営業損失(△)	△36,674	△583
営業外収益		
受取利息	0	10
受取配当金	2	2
為替差益	519	—
作業くず売却益	2,495	7,206
助成金収入	30	—
雑収入	4,390	440
営業外収益合計	7,439	7,659
営業外費用		
支払利息	2,960	3,737
為替差損	—	232
雑損失	507	77
営業外費用合計	3,468	4,047
経常利益又は経常損失(△)	△32,703	3,029
税金等調整前中間純利益 又は税金等調整前中間純損失(△)	△32,703	3,029
法人税、住民税及び事業税	1,293	823
法人税等調整額	△383	△168
法人税等合計	910	655
中間純利益又は中間純損失(△)	△33,614	2,374
非支配株主に帰属する中間純利益 又は非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△2,264	509
親会社株主に帰属する中間純利益 又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△31,349	1,864

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	△33,614	2,374
中間包括利益	△33,614	2,374
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△31,349	1,864
非支配株主に係る中間包括利益	△2,264	509

(3) 中間連結株主資本等変動計算書

前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	67,984	30,000	△61,692	36,292
当中間期変動額				
親会社株主に帰属する 中間純損失(△)			△31,349	△31,349
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計	—	—	△31,349	△31,349
当中間期末残高	67,984	30,000	△93,041	4,942

	非支配株主持分	純資産合計
当期首残高	27,116	63,408
当中間期変動額		
親会社株主に帰属する 中間純損失(△)		△31,349
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	△2,264	△2,264
当中間期変動額合計	△2,264	△33,614
当中間期末残高	24,851	29,794

当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	67,984	30,000	△105,105	△7,120
当中間期変動額				
親会社株主に帰属する 中間純利益			1,864	1,864
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計	—	—	1,864	1,864
当中間期末残高	67,984	30,000	△103,240	△5,256

	非支配株主持分	純資産合計
当期首残高	23,452	16,331
当中間期変動額		
親会社株主に帰属する 中間純利益		1,864
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	509	509
当中間期変動額合計	509	2,374
当中間期末残高	23,961	18,705

(4) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益 又は税金等調整前中間純損失(△)	△32,703	3,029
減価償却費	15,933	11,876
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4,866	3,412
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△1,535	1,410
受取利息及び受取配当金	△3	△13
助成金収入	△30	—
支払利息	2,960	3,737
売上債権の増減額(△は増加)	△34,653	44,670
棚卸資産の増減額(△は増加)	△9,646	△12,896
仕入債務の増減額(△は減少)	△20,869	△7,395
その他	△5,413	△9,597
小計	△81,094	38,233
利息及び配当金の受取額	3	13
助成金の受取額	972	—
利息の支払額	△2,957	△4,917
法人税等の支払額	△2,446	△940
営業活動によるキャッシュ・フロー	△85,521	32,389
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△29,229	△7,859
無形固定資産の取得による支出	△1,769	—
その他	899	30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△30,100	△7,829
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	50,000	50,000
長期借入れによる収入	40,000	7,500
長期借入金の返済による支出	△84,084	△52,674
リース債務の返済による支出	△1,022	△706
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,893	4,119
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△32
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△110,728	28,646
現金及び現金同等物の期首残高	181,797	83,335
現金及び現金同等物の中間期末残高	71,068	111,981

(5) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において、重要な営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、また、当中間連結会計期間においても、営業損失583千円を計上しております。

当該状況により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは当該状況を解消し又は改善すべく、以下の対応策に取り組み、安定した収益基盤の確立、コスト削減および資金調達等による、財務基盤の強化を目指してまいります。

具体的には次のとおりであります。

1. 歯科技工関連事業及びオーラルケア製品製造販売事業に並ぶ新たな収益源として、前連結会計年度より開始したマウスピース矯正事業を育成し、さらに今後、主に歯科クリニック向けサービスを提供する歯科関連ビジネスの立ち上げと育成に努めてまいります。
2. イオン歯ブラシの製造販売を行っているアイオニック株式会社との連携によって、収益基盤の拡大とシナジー効果の創出に努めてまいります。
3. 主要取引先であり、前述のアイオニック株式会社への共同出資を実施した株式会社シケンと引き続き緊密に連携し、収益拡大を図ってまいります。
4. 人件費を含めた経費の全面的見直しを実施、不採算部門の縮小等リストラチャリングを積極的に推進し、キャッシュ・フローの最大化を目指してまいります。
5. 財務状態の改善を目指し、新たなファイナンスの検討を実施、同時に借入金等その他の資金調達についても進めてまいります。

以上の対応策を中心とした経営の効率化を図り、安定的な収益基盤を構築すべく努めてまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上であり、計画が全て順調に推移するとは限らず、不測の事態も考えられることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「歯科技工関連事業」、「オーラルケア製品製造販売事業」及び「マウスピース矯正事業」の3つを報告セグメントとしております。「歯科技工関連事業」は提携歯科技工所及び歯科クリニックから依頼される歯科技工物の製作受注を中心に、歯科技工関連商品（歯科技工材料、歯科技工機械）の販売も実施しております。「オーラルケア製品製造販売事業」は、イオン歯ブラシの製造販売を中心に、オーラルケア製品の製造販売を行っております。また「マウスピース矯正事業」はマウスピース矯正サービスを提供する提携歯科クリニックに対し、マウスピース等の歯科技工製品に関する技術的アドバイス及びサポート業務を実施しております。

なお当社グループは、前連結会計年度である2023年10月より新規事業としてマウスピース矯正事業を開始したため、従来の「歯科技工関連事業」及び「オーラルケア製品製造販売事業」に新たに「マウスピース矯正事業」を加えて3つの報告セグメントとすることに変更しております。なお、前中間連結会計期間のセグメント情報を当中間連結会計期間の報告セグメントの区分方法により作成した情報については、「マウスピース矯正事業」が前連結会計年度である2023年10月より開始されたことから開示を行っておりません。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報及び収益の分解情報

前中間連結会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注) 1	中間連結 財務諸表 計上額
	歯科技工 関連事業	オーラルケア製 品製造販売事業			
売上高					
歯科技工	96,314	—	96,314	—	96,314
歯科技工商品・製品販売	26,687	—	26,687	—	26,687
歯科関連商品販売	14,967	—	14,967	—	14,967
オーラルケア製品製造販売	—	248,747	248,747	—	248,747
顧客との契約から 生じる収益	137,968	248,747	386,716	—	386,716
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	137,968	248,747	386,716	—	386,716
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
合計	137,968	248,747	386,716	—	386,716
セグメント損失(△)	△14,348	△7,533	△21,882	△14,792	△36,674

- (注) 1 調整額は、以下のとおりであります。
 セグメント損失の調整額△14,792千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 2 セグメント損失は、中間連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

当中間連結会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント			計	調整額 (注) 1	中間連結 財務諸表 計上額
	歯科技工 関連事業	オーラルケア 製品製造販売 事業	マウスピース 矯正事業			
売上高						
歯科技工	103,061	—	—	103,061	—	103,061
歯科技工商品・製品販売	26,019	—	—	26,019	—	26,019
歯科関連商品販売	19,157	—	—	19,157	—	19,157
オーラルケア製品製造販売	—	258,644	—	258,644	—	258,644
マウスピース矯正サービス	—	—	63,838	63,838	—	63,838
顧客との契約から 生じる収益	148,238	258,644	63,838	470,721	—	470,721
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	148,238	258,644	63,838	470,721	—	470,721
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
合計	148,238	258,644	63,838	470,721	—	470,721
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	△18,613	5,209	26,792	13,388	△13,971	△583

- (注) 1 調整額は、以下のとおりであります。
 セグメント利益又はセグメント損失の調整額△13,971千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用で
 あります。
 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 2 セグメント利益又はセグメント損失は、中間連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。